

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成24年8月30日(2012.8.30)

【公表番号】特表2012-500438(P2012-500438A)

【公表日】平成24年1月5日(2012.1.5)

【年通号数】公開・登録公報2012-001

【出願番号】特願2011-523796(P2011-523796)

【国際特許分類】

G 0 6 F 3/12 (2006.01)

【 F I 】

G 0 6 F 3/12 C

【手続補正書】

【提出日】平成24年7月12日(2012.7.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

パッケージングのための印刷面付け方法であって：

- a) 面付けシートを備えるステップ；
  - b) 面付けシート特徴を備えるステップ；
  - c) 第 1 のデザインされたパッケージ要素を備えるステップであって、前記デザインされたパッケージ要素は第 1 の可変情報オブジェクトを有する、ステップ；
  - d) 第 1 の可変情報データを備えるステップ；
  - e) 前記第 1 の可変情報オブジェクトに前記第 1 の可変情報データを加えるステップ；
  - f) 前記第 1 のデザインされたパッケージ要素において前記第 1 の可変情報オブジェクト及び前記第 1 の可変情報データを組み合わせることにより第 1 可変パッケージ要素を生成するステップ；
  - g) 第 2 のデザインされたパッケージ要素を備えるステップであって、前記デザインされたパッケージ要素は第 2 の可変情報オブジェクトを有する、ステップ；
  - h) 第 2 の可変情報データを備えるステップ；
  - i) 前記第 2 の可変情報オブジェクトに前記第 2 の可変情報データを加えるステップ；
  - j) 前記デザインされたパッケージ要素において前記第 2 の可変情報オブジェクト及び前記第 2 の可変情報データを組み合わせることにより第 2 可変パッケージ要素を生成するステップ；
  - k) 前記面付けシート特徴に従って前記面付けシート上に前記第 1 可変パッケージ要素及び前記第 2 可変パッケージ要素を位置付けるステップ；並びに
  - l) 前記面付けシートが十分にポピュレートされない場合には、上記ステップ c) に戻り、前記面付けシートが十分にポピュレートされた場合には、終了する、ステップ；
- を有する印刷面付け方法。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の印刷面付け方法であって、前記第 1 のデザインされたパッケージ要素のダイカットは前記第 2 のデザインされたパッケージ要素のダイカットとは異なる、印刷面付け方法。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の印刷面付け方法であって、前記第 1 の可変情報オブジェクトは複数の

可変情報オブジェクトである、印刷面付け方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

図3は、デザインされた印刷面付けシート30の例を示している。その面付けシートの例は、同じ面付けシートにポピュレートされた同じ4つのパッケージング要素を有する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

パッケージング要素10は典型的には、図1に示すように、非矩形形状である。所定の印刷面付けシート30上にそのような形状を組むことは、Kodak社製のPandora（登録商標）又はStepOne（登録商標）等の専用パッケージデザインアプリケーションにより達成される。パッケージングデザインワークフローは、少なくとも次のステップを有する。

1、次のパッケージングオリエンテッドファイルフォーマット、即ち、シートサイズ情報を有するCFF2/DDES/DXF、単独のパッケージング形状及びステップを表すデータ、各々のインスタンスの繰り返しのうちの少なくとも1つに従って書き込まれたテキストファイルのみによりもたらされるステップをデザインし、パッケージング形状を繰り返す。

2、最初のステップで生成されたデータは、グラフィックアートデザインステップにより取り込まれて、Kodak Pandora（登録商標）等のアプリケーションを繰り返す。そのアプリケーションのユーザは更に、全ての繰り返しに同じアートをポピュレートすることが可能であり、又は、異なる繰り返しについて異なるアートを割り当てることが可能である。

3、最初のステップからのデータはPostscript（登録商標）/PDFに変換され、各々の繰り返しが手動でグラフィックアート（アートワーク）情報を割り当てられるAdobe Creative Suite（登録商標）等のデザインパッケージに取り込まれる。ユーザは更に、同じアートワーク内に全ての繰り返しをポピュレートすることが可能であり、又は、異なる繰り返しについて異なるアートを割り当てることが可能である。個人用印刷の導入の場合、各々の印刷される文書は直接、特定の受取人に対して指定されることが可能である。そのような個人用文書は、名前及び住所等の個人情報を取り込むことが可能であるが、異なる画像コンテンツを割り当てることが可能である。例えば、広告は、年齢、裕福さ及び場所が異なる人々を対象とされることが可能である。可変データ印刷（VDP）ジョブは良好に確立されるが、それは、パッケージングジョブのデザイン及び印刷のためには用いられず、又はパッケージングジョブのデザイン及び印刷には容易に適合されない。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

【図1】従来技術のパッケージング要素ダイカットデザインを模式的に示す図である。

【図2A】異なるグラフィックデザインが各々ポピュレートされた従来技術のパッケージ

ング要素を模式的に示す図である。

【図 2 B】異なるグラフィックデザインが各々ポピュレートされた従来技術のパッケージング要素を模式的に示す図である。

【図 2 C】異なるグラフィックデザインが各々ポピュレートされた従来技術のパッケージング要素を模式的に示す図である。

【図 3】同じパッケージング要素を有する従来技術の面付けレイアウトシートを模式的に示す図である。

【図 4】本発明に従った、可変要素を有する同じパッケージング要素を有する面付けレイアウトシートを模式的に示す図である。

【図 5】異なるコンテンツを有するパッケージング要素を有する面付けレイアウトシートを模式的に示す図である。

【図 6】異なるデザイン及びコンテンツを有するパッケージング要素を有する面付けレイアウトシートを模式的に示す図である。

【図 7】同じシート上に異なるパッケージングジョブを有する面付けレイアウトシートを模式的に示す図である。

【図 8】異なるパッケージングジョブを有する面付けレイアウトシートであって、各々のパッケージングジョブは可変情報ジョブであり、全てのジョブは同じシート上に印刷される、面付けレイアウトシートを模式的に示す図である。

【図 9】可変データ記録リポジトリからの可変パッケージング文書の生成を模式的に示す図である。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

図 4 は、パッケージング要素 34 は、パッケージング面付けシート 40 の 4 つのインスタンス全てについて同じである。更に、各々のインスタンスは、パッケージング要素 34 の各々に取り付けられた可変構成要素 (44, 45, 46, 47) を有する。図 9 は、可変データ記録リポジトリ 91 から検索された可変構成要素 92, 93, 94 を示し、各々の記録は、新しく生成された可変パッケージング文書 95, 96, 97 にポピュレートされる。この実施例においては、テキスト形式の可変構成要素を示しているが、各々の記録は、例えば、画像又はグラフィックス等の異なる形式であることが可能である。種々の可変構成要素は、各々のパッケージング要素 34 の異なる可変ブレースホルダにおいて構成される又は自動的にグラフィカルに位置付けられることが可能である。そのような可変データリポジトリにおける記録量はかなり多いことが可能であり、従って、異なる記録に適合するように自動的に生成されたかなり多くの数のパッケージング要素がもたらされる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

パッケージング面付けシート 70 に類似するパッケージング面付けシート 80 を示す図 8 を参照する。パッケージング面付けシート 80 は、ジョブ 72, 74 及び 76 の各々のインスタンスを入れることに加えて、パッケージング面付けシート 80 においてデザインされた可変構成要素を自動的に変化させてポピュレートするように構成されている。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

可変構成要素をポピュレートすることは、ラスタイメージプロセッサ（RIP）に可変情報処理手段を備えることにより、RIP前に又はRIP理中に実行されることが可能である。Creoデジタルカラーサーバで用いられるCreo RIPは、Creo VPS（Variable Postscript）、PPML（Personalized Print Markup Language）、又は可変データ構成要素が備えられたPDF等の他のフォーマットを処理することができる。RIPを処理することができるVPSを利用するように、備えられる必要があるパッケージングシートデザインアプリケーションにより生成されるデータは、VPSフォーマット又はPPML等のフォーマットを処理することができる他の可変フォーマットである。